

令和7年度 学生FD CHAmiT 学部で対応可能な意見に対する報告書

学生意見の集約

| 実施日 | 実施内容 |
|-------------------------------------|--|
| 令和7年6月17日 令和7年6月18日 令和7年6月20日 | 【具体的な実施方法】 ①しゃべり場（学生を中心として改善点の意見出しを行い、教職員とともに改善案を検討） ②アンケート（しゃべり場で出された改善案について緊急度と重要度を調査） 【参加学生（学科・学年）】 ①15名、機械・1年、電気・4年、電気・1年、電気・1年、土木・2年、土木・2年、建築・1年、 建築・1年、応化・4年、応化・3年、MA・4年、MA・3年、数情・1年、環境・1年、創生・3年 ②有効回答110件、全学部学生を対象に実施 |

学部で対応可能な意見

※学生FD CHAmiT当日、以下の内容を基に、参加学生からご説明いただきます。

| 学生からの意見（学部・学科の問題点） | 対応済 | 対応中 | 問題解決のプロセス |
|--|-----|-----|--|
| 【意見】（授業） 1年生のときに研究室について知る機会のある授業（電気電子工学特別講義）があったのが良かったので、全学科で実施してほしい。 【理由・経緯】 上級生にならないと気が付かないかもしれないが、1年生の時に研究室を知れたことが、専門性への意識を強くするきっかけになった。 | | ○ | 【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】 研究室配属の際に考え出すのでは遅いので、1年生のうちに興味関心を強めるとともに、方向性を考えながら履修科目も選択できるようになる。 【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 先生による研究室紹介でもよいが、上級生や大学院生が自分のエピソードとともに話してもらった方が1年生にとっては情報を受け取りやすい。研究室以外でも、生産実習の1年生版を設けてもらえると、就職先の目線も養われる。 【③問題を解決するにあたっての課題・ハードル】 1年生に対しての研究室紹介は既の実施されているが、研究室の配属先選択時ほど詳細な説明をしていない学科が多い。授業時に説明する機会は、カリキュラム上、現行の科目の中で入れることは難しいが、授業外のガイダンス等に機会を設けることは検討可能である。 |
| 【意見】（授業） 授業内で5分でよいので学生同士や先生と話し合う時間をとってほしい。 【理由・経緯】 せっかくの対面授業なのに、先生と学生、学生と学生のコミュニケーションがない。 | | ○ | 【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】 学生同士の話し合いにより、お互いの理解を共有することで相乗効果として理解が深まる。また、先生との対話により、学生の理解が深まるほか、教員が学生の状況を把握する機会になる。 【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 100分授業を有効に活用するために、合間にリフレッシュタイムとして話し合いの時間を設ける。学生は各回で座る位置を変えたりして、いろいろな人と交流できるように工夫する。 【③問題を解決するにあたっての課題・ハードル】 先生により、授業構成が違うため、教員の負担が伴う。 また、大人数の授業では実施することで授業時間に影響が出る可能性がある。 |

| 学生からの意見（学部・学科の問題点） | 対応済 | 対応中 | 問題解決のプロセス |
|--|-----|-----|--|
| <p>3</p> <p>【意見】（授業） 個々の授業における改善点が多いので、授業評価アンケートを意識して改善を行う。もしくは改善できない理由を説明する。</p> <p>【理由・経緯】 レポートの点数がわからないため改善できない、授業科目とは関係ない話ばかりするなど授業に関して改善点が出てくるが、個々の先生の意識によって改善が可能と思われる。</p> | | ○ | <p>【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】 学生の声を反映させた授業改善が実行できる。もし実行できない場合は、その理由が示されることで学生も趣旨を知った上で学修に望める。</p> <p>【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 授業評価アンケートおよび振り返りが形骸化しないように実効性を持たせ、改善の自己チェック機能を設ける。学生も自身が望む改善を伝えるために授業評価アンケートにしっかりと回答する。</p> <p>【③問題を解決するにあたっての課題・ハードル】</p> |
| <p>4</p> <p>【意見】（施設・設備） 図書館が広いという好意的な意見がある一方で、図書館が迷路みたいで使いづらいとの不満の声もある。</p> <p>【理由・経緯】 図書館で目的の書籍を見つけたくても、建物の構造もあって見つけづらい。</p> | | ○ | <p>【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】 授業に必要な書籍を見つける時間を短縮することで、学修時間の確保、学修意欲の維持が期待される。</p> <p>【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 現在、図書館ツアーの復活について検討している。1年生の最初に一度図書館に来る機会を設け、全体像をってもらうことでハードルが下がることを期待している。 また、学生FDも協力し、学生目線のマップの作製や図書館の自習室の紹介などで利用率向上に貢献する。それに加え、学生もたまに使うのではなく、図書館に慣れるために普段から利用したり、書店で見られるように、検索結果に場所を示すマップを表示する。</p> <p>【③問題を解決するにあたっての課題・ハードル】 どの図書館でも「ある一冊の詳細な場所」というのを明示しているところは少なく、どの書架にあるかを示す程度である。 また、図書館における本の分類方法は統一的に決まっており、その分類の場所については検索システムで分かる運用になっている。 構造上の問題は建物を建て替えるしかないような構造で、そのことは学部にお問い合わせしたこともあるがキャンパス整備として簡単なことではない。</p> |
| <p>5</p> <p>【意見】（サービス） 学習システムが複数あり、お知らせが入手しづらかったり、使いにくいものもある。</p> <p>【理由・経緯】 ポータルシステム、Classroom、クラウドキャンパス、Canvas LMSといった複数のシステムが先生によって異なって用いられている。</p> | | ○ | <p>【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】 情報が一元化されると、情報の見落としもなくなり、利用方法を各々で理解する必要もなくなるので、学修に集中することができる。</p> <p>【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 システムの移行期になっているため、学修についてはCanvas LMSに統一し、学部からの情報はポータルシステムで発信する。なお、学部のメールもあるので、ポータルシステムとの連携（少なくともパスワードの統一）も行う。学生も情報源が絞られた際には、毎日確認するなど習慣を身につける。</p> <p>【③問題を解決するにあたっての課題・ハードル】</p> |
| <p>6</p> <p>【意見】（授業） 公正な成績評価が行われていないことがある。</p> <p>【理由・経緯】 欠席していても評価が変わらなかったり、グループワークの成果に貢献度が反映されていなかったりすることがある。</p> | | ○ | <p>【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】 学修意欲を下げられることがなくなり、さらに妥当な評価によって取り組みにやる気が出る。</p> <p>【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 出欠に関しては、少人数クラスであれば内容確認の演習によって、大人数クラスであれば時間制限のQRコード利用の簡単な小テストを毎回行って評価に組み込む。グループワークの評価であれば、レポートの書く場所を決めたり、レポートを書く順番を決めたりと個別の評価ができるように工夫する。学生も毎回の授業に出席し、課題に取り組むなど、本来は当たり前の行動を習慣化する。</p> <p>【③問題を解決するにあたっての課題・ハードル】</p> |

| 学生からの意見（学部・学科の問題点） | | 対応済 | 対応中 | 問題解決のプロセス |
|--------------------|---|-----|-----|---|
| 7 | 【意見】（授業） 他学科と関わる機会が多いという意見と、少ないという意見が混在している。 | | ○ | 【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】 他学科と交流することにより、多角的に物事を考える視点を獲得ことができ、学びに深みや広がりを与えることができる。 |
| | 【理由・経緯】 他学科と関わる授業（横断科目など）の存在や他学科の授業を履修できるシステムを知らない学生が多い。 | | | 【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 ガイダンスの時間が足りていないので改善する。周知する際には、他学科と交わることの利点を説明できるようにする。時間割の都合上で3学科ごとに区切られているが、正課授業で9学科が交流することが難しければ、桜泉祭のイベントとして実施する。学生も調べればわかるところも多いので、自分から情報収集する姿勢を身につける。 |
| 8 | 【意見】（授業） 授業が異なってもグループワークのメンバーが同じ場合が多い。 | ○ | | 【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】 グループが固定化されると役割が固定して新たな学びが発生しづらい、緊張感がなくなって学修意欲が低下するなどのデメリットがあるので、それらの改善が図られる。 |
| | 【理由・経緯】 多くの先生が学生番号順でグループを決めているので、メンバーが変わらないことが多い。もっと多くの人と交流する機会があった方がよい。 | | | 【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 学生番号順であっても、偶数と奇数で分けて、ずらした形で偶数と奇数を組み合わせれば、いつものメンバーと新しいメンバーとの混成グループができるので、ちょっとした工夫で対応を図る。 |
| 9 | 【意見】（システム・サービス） 情報不足の学生が多い。 | ○ | | 【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】 情報収集により、より適した科目選択を行うことができたり、アカデミックアドバイザーなどの学習サポートシステムを活用したりでき、学びを豊かにすることができる。 |
| | 【理由・経緯】 先輩として質問を受けるが、なぜ知らないのかが不思議なものもあり、調べればわかることを調べないまま、知らないで済ませている学生が多い。 | | | 【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 複数のシステムが混在しているので、情報公開の場所を統一化していく。どこにどの情報が掲載されているのかをわかるように入力を設ける。学生もポータルシステムやメールを起点に、自分から情報収集する習慣をつける。また、学生メンターのシステムが導入されたので、学生同士での情報交換の場として活用する。学生FDも学生目線で、情報を公開方法や公開内容を検討して、周知徹底の検討を行う。 |
| | | | | 【③問題を解決するにあたっての課題・ハードル】 他学科の専門教育科目を履修することについては、一部学科では卒業要件に算入されない。その他の学科においても、他学科の専門教育科目は最大6単位までしか卒業要件に算入されない。 |

| 学生からの意見（学部・学科の問題点） | | 対応済 | 対応中 | 問題解決のプロセス |
|--------------------|---|-----|-----|---|
| 10 | 【意見】（授業） 練習問題の少ない授業がある。 | | ○ | 【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】 ラーニングピラミッドにもあるように、学修内容の定着のためには、問題を解く作業は重要となるので、事後学修として取り組めるようにすれば学習効果が高まる。 |
| | 【理由・経緯】 授業だけでは理解が不十分であるが、さらに理解を深めるための問題を提示してもらいたい。特に、授業との関連がわかるような問題にしてもらいたい。 | | | 【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 一般のテキストが授業内容に即していれば、テキストと該当ページを示し、独自の授業を展開しているのであれば、授業内容に合った内容の問題集を作る。学生も提示された問題を解いて理解を深めるほか、授業内容を改めて咀嚼するためにまとめノートを作るなどの学修定着率を高める工夫を行う。 |
| 11 | 【意見】（授業） 受け身の授業が多い。 | ○ | | 【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】 受動的な講義よりも能動的な講義の方が、「自ら考える」姿勢が育成され、学修意欲が高まり、学びが促進される。 |
| | 【理由・経緯】 ただ授業を聞き、与えられた課題をこなすことが多い。 | | | 【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 グループワークであれば、コンテスト形式にするなど「自ら考える」モチベーションを高める。座学科目であってもペアワークなどの導入により、お互いに授業の内容や課題の解答を議論する機会を設けるなど、学生が主体になる機会を設ける。学生も能動的な学修機会を無駄にしないために、積極的に提供されたワークに参加する。 |
| 12 | 【意見】（授業） 主に実験において、説明が長く作業時間が短いことがある。また、何のための実験なのかわからないことがある。 | ○ | | 【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】 作業時間の確保により、落ち着いて、考えながら実験に取り組める。実験の趣旨を理解することで、理論などの理解を深めることができる。 |
| | 【理由・経緯】 説明が長く、作業時間が減るほか、何をすればよいかかわからなくなる。実験を行い、レポートをまとめて終わるので、実験の意図が読み取れないことがある。 | | | 【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 説明を簡潔にし、小まめに実験作業を進めていく。実験をした後には、振り返りを行い、改めて実験の趣旨を確認するための説明を行う。学生も実験に臨む上で、事前学修を行って参加する。 |
| | | | | 【③問題を解決するにあたっての課題・ハードル】 科目の性質上、練習問題等を設けづらいものがある。 |

| 学生からの意見（学部・学科の問題点） | | 対応済 | 対応中 | 問題解決のプロセス |
|--------------------|---|-----|-----|--|
| 13 | 【意見】（授業） 先生が異なると、連続性のある講義でも教科書が異なる。また、教科書を購入しても利用せずに終わることがある。 | ○ | | 【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】 昨今の社会状況を踏まえれば、学費に関わる負担の軽減により、継続的な学修につながる。 |
| | 【理由・経緯】 同じ内容の教科書や利用しない教科書を購入するのは、保護者や学生に掛ける費用的な負担が大きい。 | | | 【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 連続性のある授業では教科書を揃えるか、一部しか利用しないのであれば、オリジナルの資料を作る。また、教科書の必要性をシラバスに記載し、購入のタイミング（授業開始時に必要か授業を受けて判断かなど）や重要性（☆印の個数などで）を示す。学生もシラバスに記載されている教科書の情報を確認して、シラバスでは読み取れない情報をネットなどで調べて情報収集を行う。 |
| 14 | 【意見】（システム・サービス） アカデミックアドバイザールームがあることで助かった。さらに専門科目の相談も対応してもらえると助かる。 | ○ | | 【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】 じっくりと取り組める場として、アカデミックアドバイザールームがあるので、学科の専門的な科目で困っている学生の理解を促してくれる。 |
| | 【理由・経緯】 数学、物理の質問を受け付けてくれて1年生の時に助かったが、学科の専門的な科目の質問には対応してもらえない。 | | | 【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 アカデミックアドバイザーが各学科の専門的な科目の質問に対応することはできないため、各科目の担当教員にオフィスアワーを利用して質問する。 |
| 15 | 【意見】（施設・設備） 未来工房で生産活動を行うことができるが、使い方がわからなくて行きづらい。 | ○ | | 【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】 気軽にものづくり体験ができれば、ものづくりを行う工程を学び、その実体験を理論と結びつけて「経営のわかる技術者」の素養が育成される。 |
| | 【理由・経緯】 自主創造の基礎で未来工房の存在は教えてもらえるが、実際にどう使うのかは教えてもらえない。 | | | 【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 1年生に対して、未来工房の利用体験期間を設ける等、参加しやすい仕組みをつくる。 |
| | | | | 【③問題を解決するにあたっての課題・ハードル】 |

| 学生からの意見（学部・学科の問題点） | | 対応済 | 対応中 | 問題解決のプロセス |
|--------------------|---|-----|-----|--|
| 16 | 【意見】（施設・設備） 共有プリンターに印刷機能を付けてほしい。 | ○ | | 【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】 自身の学修履歴を残すことにより、振り返りを行うことで学びを定着させるとともに、学修内容のつながりを理解することができる。 |
| | 【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 プリンターにコピー機能（スキャン機能）を追加するか、難しければコピー機を設置する。 | | | |
| | 【理由・経緯】 提出物で手元に戻ってこない手書きのレポートを残したい。 | | | 【③問題を解決するにあたっての課題・ハードル】 以前、有料で使用できるコピー機をキャンパス内の複数個所に設置していたが、利用件数が少なく採算がとれないため撤去となった。一定の利用件数が見込まればコピー機の設定が可能となる。 |
| 17 | 【意見】（施設・設備） コンセントが少ない。 | ○ | | 【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】 パソコンの充電が授業中に切れ、学修に遅れが生じるという問題が解消される。 |
| | 【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 コンセントを増やすことは難しいと思われるが、既存のコンセントをパソコンの充電用に分岐させて、充電できる環境を整える。 | | | |
| | 【理由・経緯】 フル充電して持参したパソコンも、使用状況により充電がなくなることがあるが、充電しながら作業ができる箇所が少ない。 | | | 【③問題を解決するにあたっての課題・ハードル】 PC室などの用途的に電源が必要な部屋には十分に用意できているが、設備費の問題で現状では対応が難しいため、キャンパス計画にて、検討を行う。 |
| 18 | 【意見】（施設・設備） 時計のない教室に時計を設置してほしい。 | ○ | | 【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】 授業時間を把握することで、演習などの作業時間を配分しながら実施できる。 |
| | 【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 電波時計などを設置して時間がわかるようにする。 | | | |
| | 【理由・経緯】 時間の確認はスマホで行っているが、授業中にスマホを操作して注意されるため、時間の確認ができない。 | | | 【③問題を解決するにあたっての課題・ハードル】 設備の導入が可能か費用面を含め、検討を行う。 |
| 19 | 【意見】（施設・設備） 学科によっては荷物が多いので、ロッカーを設置してほしい。 | ○ | | 【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】 教室移動などにより、多くの荷物を運ぶことで疲弊することを防ぐことができ、授業中の集中力を改善することにつながる。 |
| | 【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 学生全員のロッカーを配置することは不可能と思うが、荷物が多い学科など条件を付けてロッカーを貸出しできるようにする。 | | | |
| | 【理由・経緯】 実籾キャンパスではロッカーの貸出があるが、津田沼キャンパスにはロッカーの貸出しがないので、学科の授業の荷物や体育の授業の荷物などを持ち運ばなくても済むようにしてほしい。 | | | 【③問題を解決するにあたっての課題・ハードル】 ロッカーの設置場所の確保及び設置に係る費用について検討が必要となる。 |

| 学生からの意見（学部・学科の問題点） | 対応済 | 対応中 | 問題解決のプロセス |
|---|-----|-----|--|
| <p>20</p> <p>【意見】（システム・サービス） 授業以外の学びの場となるサークル活動に関して、ホームページの更新がされず、見学の際に困った。</p> | | ○ | <p>【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】 サークルに参加することにより、縦や横のつながりをつくることで、授業に関する情報共有を行ったり、授業では学べない素養を身につけたりすることができる。</p> |
| <p>【理由・経緯】 1年生はホームページの情報が古く困っており、上級生はホームページの更新の方法がわからずに困っている。</p> | | | <p>【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 サークルのホームページ更新方法を、誰もが確認できるように提示する。</p> |
| | | | <p>【③問題を解決するにあたっての課題・ハードル】</p> |